



社団法人 日本理学療法士協会

富山県士会ニュース

平成17年度 2 (通算 98号)

総会員数 274名 (休会26名)

全93施設

2005.9.21 発行人 日本理学療法士協会 富山県士会
〒936 0023 滑川市柳原149 9 富山医療福祉専門学校 理学療法学科内 ☎(076) 476 1716
代表:塚本 彰 編集:赤尾健志 印刷:志貴野苑
士会URL:<http://toyamapt.umin.ne.jp/> 事務局アドレス:toyamapt-office@umin.ac.jp

CONTENTS

理学療法週間



理学療法週間事業開催.....	2
学術研修会「腰痛疾患に対する 理学療法」に参加して... 4	4
「臨床実習教育研修会」を開催して... 4	4
理事会報告.....	5
士会員の独り言.....	6
あるトレーナーの夢.....	7
平成17年度予定表 富山県理学療法士会... 8	8

生涯学習委員会からのお知らせ.....	9
富山県理学療法士会賛助会員名簿...10	10
会員異動状況.....	10
事務局インフォメーション.....	11
職能局の窓口から.....	11
情報管理部のお知らせ・編集後記 ...11	11
求人広告.....	12~18

理学療法週間事業開催

去る7月10日の日曜日に、ファボーレ正面出入口で、理学療法週間事業のイベントを行い、県士会員18人が理学療法及び理学療法士についてのPR活動を行いました。

当日は、午前8時30分に現地に集合し、荷物の搬入、会場設営を行いました。いざイベント会場に行ってみると、そこには、何日も前から七夕飾りが陣取っておられたようで、しかも、まだまだそこに居座るつもりでいらっしゃるようなので、ファボーレの許可を得て、正面玄関の中の一等地に設営をすることになりました。予定していた場所よりもずっと目立ち、却って良い結果となりました。



午前10時の開店時には、玄関前に沢山の人がだかりができており、開店と同時に皆さん一齐に、私たちの前をマッハで通り過ぎ、太陽の広場へ向かわれ、まるで駅のホームで素通りする特急列車を見ているような感じでした。太陽の広場では、どうやらマジレンジャーショーが行われるらしく、大変盛り上がっている様子でした。しかし、そのおかげもあり、沢山のちびっ子達が来店されており、結果的に私たちの風船はとっても人気者になり、2時間もするとファボーレじゅう「理学療法の日」のロゴ入りハート型風船だらけになっていました。全部で1,000個程配布しました。風船作製・配布班Yさんは「楽しかったです。」と証言していますし、風船を持った子供たちも嬉



しそうでした。

しばらくしてマジレンジャーショーが終わる頃、太陽の広場方面から沢山の人がこちらへ向かって移動してこられ、「これは...」「もしや...」と思ったのもつかの間、皆さん隣の柱のところで引き返していかれ、「どういうこと?」と聞くと、今度はマジレンジャーのサイン会の行列だということで、「マジレンジャー、侮れず。」と心の中でつぶやく始末でした。ただ、角度によってはサイン会の行列があたかも理学療法週間イベントの行列のように見えたりして、「ここから写真を撮るといいのが取れるぞ。」って、そんなことを思っている自分に、なんとなく寂しさを感じたりしました。その時ふと最前列でポケットティッシュと団扇を配る部員のみみなを見ると一人一人が巧みな動きで、来店されている



お客様を次々と攻略し、グッズを手渡しており、その姿に感動し、胸が熱くなり、「頑張らねば!」と思いながら、ひたすらビデオ撮影を行っている自分がおり、結局ピンボケの

写真と、タイミングの外れたビデオの山を築き上げることができました。風船も沢山配りましたが、ポケットティッシュ1,000個と、前年の残り物の団扇1,200枚も全てを配布することができました。風船、団扇、ポケットティッシュの3点セットをお持ち帰り頂いたご家族が数知れず居られたことは言うまでも御座いません。団扇やポケットティッシュは、その後の花火大会とか納涼祭やら何やらで、大活躍される事は間違い無いと思われ、時間差で理学療法の日をアピールでき、古いフレーズですが、「一粒で二度美味しい。」ってところでしょうか。

体験コーナーでは車椅子体験、高齢者疑



似体験、歩行補助具体験を行いました。車椅子での段差越えなどを体験していただいたり、高齢者疑似体験セットと装着して、杖歩行していただいたりしました。体験者数自体は例年より少ないようでしたが、一人一人に十分時間をかけ、良い体験をしていただけたように思います。



相談コーナーでは、車椅子や義足の処方についての相談や、進路相談などに対応しました。理学療法週間イベントの噂を聞きつけ、

わざわざ足を運んでくださった方もいました。

その他、日本理学療法士協会製作の理学療法紹介ビデオの上映や、アンケート調査を行いました。ビデオを上映しているスクリーンを真剣な眼差しで見つめる少数派の方もおられました。



また、テレビ局や新聞社の取材を受け、当日の夕方のテレビニュースで活動内容が報じられました。生き生きと活動する部員の姿がバッチリ映っており、とても良いPRになっていると思えました。



今年度からこのイベントを広報部が担当し、まったく新しい部でありますので、準備もあまりできず、ぶっつけ本番で望んだ当日ですが、部員の皆様、応援に来てくださった先生方のおかげで、無事に乗り切ることができました。今後理学療法週間事業が益々充実した有意義な活動になるように広報部員一同力を合わせて頑張っていきたいと思えます。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

厚生連高岡病院 菱田 実

学術研修会「腰痛疾患に対する理学療法」に参加して

平成17年7月3日(日)、富山医療福祉専門学校にて骨・関節疾患研究会主催の研修会「腰痛疾患に対する理学療法」が行なわれました。講師にはN T T西日本東海病院の青木一治先生をお招きしました。

午前の講義では解剖・生理学的背景から腰部の疼痛発生原因について説明され、それらに対する運動療法について自研例を交えて講義されました。講義では「腰痛は症状であって病名ではない」という先生の言葉が印象的でありました。疼痛の原因を画像所見、理学所見からの確に抽出し、原因に対して運動療法を実施する重要性を再確認しました。運動療法については屈曲運動と伸展運動があり、前者は腰椎椎間関節症、腰椎前弯増強による腰痛症など、後者は腰椎椎間板障害、腰椎前弯減少による腰痛症などに適応であると述べられました。さらに先生は、股関節屈曲運動(大腰筋の運動)を実施することで疼痛が緩和される場合は、屈曲運動の適応があることなどわかりやすい評価方法も紹介されました。

午後の実技では参加者の中から腰痛がある方に対して実際の運動療法が行なわれました。可動域の改善、疼痛の緩和を目の前にし、腰痛に対する運動療法の効果を確認することができました。

今回の研修に参加するまでは、腰痛に対するアプローチは痛みに対してどのように緩和させるかに重点をおいて実施していましたが、痛みを惹き起こしている原因を評価し、的確にアプローチしていくことが重要であることを実感しました。今後もこのような研修会に積極的に参加していきたいと思いました。

骨・関節疾患研究会では定期的にcase studyを実施しています。皆様の参加お待ちしております。

八尾総合病院 舟坂 浩史

「臨床実習教育研修会」を開催して

去る7月30日(土)・31日(日)の2日間、サンシップ富山において、(社)日本理学療法士協会教育部との共催にて「臨床実習教育研修会」を開催しました。参加者は、県内外より36名(県内14名、県外22名)でした。

研修会は、1日目に「理学療法実習指導の進め方(記録法を含む)」に木村貞治氏、「技術領域の教育 クリニカル・クラークシップを用いて」に中川法一氏、2日目に「臨床実習のための教育技法 臨床技能を高めるために」に潮見泰蔵氏、「情意領域の教育」に、本年7月より協会教育部長になられた荻島久裕氏に講演していただきました。

又、参加者に提示していただいた事例を元にグループ討議によるワークショップを行いました。各講演の際には質疑応答が活発になされ、参加者の臨床実習に対する熱意や問題意識の高さを改めて感じました。終了後のアンケートでは、「実践的な内容であった」「学生ばかりに問題があるのではなく、指導者にも問題があると分かった」「学生を担当する不安から楽しみに気持ちが変わった」などの感想を頂き、有意義な研修会であったのではないかと思います。

卒前教育部では本年度も本研修会を継続開催していく予定です。来年度は是非、県内の先生方により多く参加して頂けたらと思っていますので、よろしくお願いします。

中屋さおり



平成17年度 第2回 理事会報告

日時：平成17年5月31日（火）
場所：富山市民病院リハビリテーション科
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 寺田
政井 堀尾 森山 川合 城戸
温盛（書記）

<報告事項>

事務局報告事項：PT協会関連、各都道府県士会関連、関連団体関連郵送物等報告

新人・転入会員歓迎会（福利厚生部）：新入会員の把握が困難となっており、来年度から新人・転入会員を5月末日までに把握し、6月に歓迎会を行う予定とする。
第34回定期総会・代議員会報告：近年会員の増加に伴い、会費の管理が困難な状況になっている。対応としては、会費の自動引き落とし完全化を可能とする会員証（新人プログラム、生涯学習の履修状況確認の機能なども併用）の発行が提案された。また協会費の余剰金が増加傾向である事、協会主催の会議の出張費負担など今後の検討課題が挙がった。

研修管理部部会報告：新人教育プログラムの履修管理が個人管理となり、単位認定に関わる研修開催時は、研修管理部で共通の受講証を発行することになる。また平成18年度より、理学療法士会教育計画（前年度に研修名、日時、会場、講師を挙げる）作成・発行予定。

その他：北陸3県交流会の日程について等。

<検討事項>

1. 第1回研修会（骨関節疾患研究会）：平成17年7月3日（日）、富山医療福祉専門学校にて「腰痛疾患に対する理学療法」をテーマとし、N T T西日本東海病院、

理学療法士の青木一治先生を講師として予定している。

2. 理学療法習慣事業計画（広報部）：7月10日（日）ファボーレ正面玄関で行う予定。6月14日に各施設にPRポスター、案内を士会ニュースと一緒に郵送する。
3. その他：理学療法士の勤務する施設における各職場の代表者が集まり、連絡協議会を設立すべきという意見があった。

平成17年度 第3回 理事会報告

日時：平成17年7月14日（木）
場所：富山市民病院リハビリテーション科
出席者：塚本 田村 滝田 島倉 寺田
政井 堀尾 森山 川合 城戸
澤井（書記）

<報告事項>

事務局報告事項：PT協会関連、各都道府県士会関連（第21回東海北陸理学療法学会の座長推薦依頼等）、関連団体関連、郵送物及び会員移動について報告。
第1回ケーススタディー報告（骨関節疾患研究会）：平成17年6月20日（月）富山協立病院にて開催。参加者21名で、グループによる症例検討を行った。

第1回研修会報告（骨関節疾患研究会）：平成17年7月3日（日）富山医療福祉専門学校にて開催。テーマは「腰痛疾患に対する理学療法」、講師は青木一治先生であった。参加者は79名で、他県士会（福井県、石川県）からも参加があり、質疑応答など活発な研修会となった。

理学療法週間事業報告（広報部）：平成17年7月10日（日）富山市ファボーレにて開催。テレビ取材などもあり、盛況であった。今後業者からの車椅子レンタルや、スポーツ車椅子展示など、幅広い年代の参加を促すように検討すべきとの意

見が出された。

< 検討事項 >

1. 臨床実習教育研修会計画 (卒前教育部) : 臨床実習教育研修における教育部員参加への補助金、活動費等、予算について検討された。講師謝礼金についてはその目安を検討し定めることとした。
2. 第2回研修会計画 (中枢神経疾患研究会) : 平成17年9月2、3日開催予定。テーマは「理学療法テクニック～発達学的アプローチ～」、事業計画・予算について確認、検討された。
3. 管理業務アンケート調査について (業推進部、調査部) : アンケート内容、スケ

ジュールについて検討された。

4. 管理運営研修会計画 (教育管理系研究会) : 平成17年10月21 (金)、22日 (土)、サンシップとやまにて開催予定。PT協会との共催事業である。その概要と案内文など報告された。
5. その他: 介護予防研修会 (保健事業部) 開催は12月4日 (日) に予定。介護老人福祉施設リハビリテーション研修会 (福祉事業部) は11月17日 (木) に開催予定で、講師として言語聴覚士の方に依頼している。呼吸に関する講義も行ってはどうかとの提案も出された。

士会員の独り言 社会人になって

西能病院 高柳真理子

国家試験も無事合格し、理学療法士として働き始めて2年目に突入しました。職場には慣れてきましたが、仕事にはまだまだという感じです。私が働いている病院は、一般病棟と療養病棟があり、私は主に急性期の整形疾患の患者様を担当しています。患者様は小学生から年配の方まで様々な年代の方がおられますが、入院期間が短く、ある程度院内生活が自立すれば退院というパターンも少なくありませんでした。退院後にリハビリへ通われる患者様も多くないため、入院中に十分なリハビリを提供することができたのか退院時指導は十分にできたのか自問自答するばかりでした。退院後、診察を受けに来られた時に元気な姿を見せてくださる患者様もおられ、その時ほど嬉しいことはありません。一人でも多くの笑顔が見られるよう、これからは限られた時間の中でよりよいリハビリを提供できるよう日々努力していきたいと思えます。

話は変わり私事ではありますが、社会人になってから時間と気力・体力の許す限りバドミントンをしています。まがりなりにも小学4年から高校3年までの9年間続けていたので、“4年のブランクくらい大したことないだろう”と高をくくっていました。しかし、予想以上に体力・技術が衰えていたことにショックを隠し切れず…。試合にも何度か出させてもらい、チームの一員としてなんとか貢献できたのではないかとと思っています。週に一度ですが、心身ともにリフレッシュできるので健康のためにも続けてみようと思えます。

また、学生時代には同年代の友人・知人しかいなかったのですが、この1年数ヶ月でたくさんの人と出会い、いろいろなことを知り学ぶことができました。患者様のご家族の方が知人であったりということもあり、『世間は狭い!』という父の口癖が、最近では私の口癖になっています。今後も理学療法士として成長するのはもちろんですが、人としても2倍3倍成長できるように一つ一つの出会いを大切にしていきたいと思えます。

～あるトレーナーの夢～

ある日、日本オリンピック委員会（JOC）より「あなたを日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ）として委嘱します」との委嘱状が届いた。

最近の日本選手の活躍はめざましい。アテネオリンピック・モンテリオール世界選手権、現在トルコで開催されているユニバーシアード大会においても多くのメダルを獲得している。2001年に設立された国立スポーツ科学センターの存在が大きい。ソフト面におけるスポーツ科学、医学研究の推進、スポーツ情報ネットワーク構築がもっとも大きな要因だろう。施設の整備、指導者、選手の育成など多様な施策が展開されている中、トレーナーとしてスポーツ選手に関わって、日本オリンピック委員会強化スタッフに選ばれてことはうれしい。



この7年間に鍼灸師、柔道整復師、指圧師、マッサージ師、体育系の大学関係者等の人達と同じトレーナーとして仕事をする機会を得た。トレーナーは医療資格ではないためいろいろな職種の人がいる。トレーナーを職業とするためには多くの中から、選手、コーチに選ばれなければならない。PTの特性は医療の知識と評価技術である。何よりも解剖学・運動学・生理学をもとにした分析能力が高い。職場やPTなどの肩書きをはずし、一個人として同じフィールドで勝負することは緊張感があり、今は楽しい。PT以外のいろいろな職種の友人もでき、外の世界からPTとしての自分を見つめ直すことができた。日本オリンピック委員会強化スタッフとして仕事することでまた多くのことを学ぶだろう。

今夏、甲子園でのPTの活動記事が新聞に載った。プロ野球やJリーガーのトレーナーとして活躍しているPTも増えてきた。学生時代に「スポーツリハに関わりたい。ジャイアンツのトレーナーになりたい。」と友人と夢を語り合った。それから約20年。二人とも学校の教員になり、自分たちの夢を後輩に託しているのかもしれない。

＜スポーツ系研究部会よりのお知らせ＞

スポーツ系研究部会は平成17年度の士会組織の改編に伴い新たに発足した専門領域の研究部会です。本研究部会は理学療法士が健常・身障スポーツ、幼児、高齢者スポーツに関わらず、個人にあわせた健康づくりから障害予防のコンディショニング、競技スポーツの競技力向上に対するトレーニング等の幅広い活動を行う上で必要な知識・技術・態度の習得、向上を図り、幅広い社会貢献を果たすことを目的としています。

本年度は「スポーツマッサージ」をテーマに、基本的技術の習得に向け勉強会を行っております（詳細は士会HP）。参加資格・経験等は問いません。参加無料です。多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

日 時：毎月開催（第3木曜日）

PM 7:00～9:00

場 所：富山医療福祉専門学校

問い合わせ先：富山医療福祉専門学校

酒井吉仁 TEL：076-476-0001



平成17年度予定表 富山県理学療法士会

月	事業計画	その他の予定
9	9月10日 理学療法教育研修会 中枢神経系研究会ケーススタディー 9月 富山市ふれあい広場参加	
10	生活支援系研究会研修会 10月21・22日 管理運営研修会 県士会員交流会	10月7・8日 全国研修会（愛知） 10月5・6日 健康と長寿の祭典
11	11月16日 介護老人福祉施設リハ講習会 循環器講習会 中枢神経系研究会小研修会 11月27日 あすなる研修	富山県リハビリテーション研究懇話会 11月12・13日 東海北陸理学療法士学会（三重） 「運動器障害に対する理学療法」
12		
1	士会新年会	
2	拡大役員会	公衆衛生学会
3	3月 第11回富山県理学療法学会 定期総会	

* この他に新人教育プログラム計画書・士会ホームページ等参考にしてください。

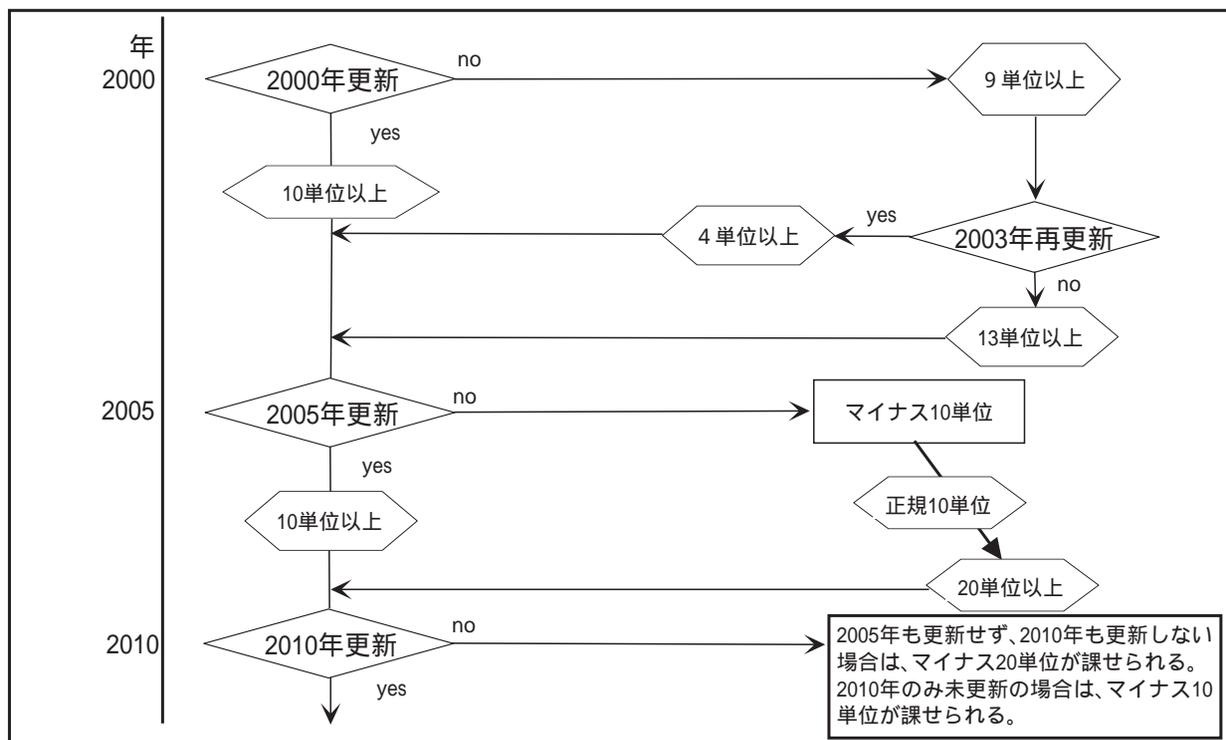


生涯学習委員会からのお知らせ

2005年は生涯学習基礎プログラム(以下：基礎プロ)の更新年です!!

今回は新人教育プログラム(新プロ)未修了以外の方は対象です
単位は2000～2004年度(平成12年度～16年度)の単位が有効です

フローチャートの見方：チャート内に単位数がない方は、下の規定単位数を参照下さい。



規定単位数

2000年更新(免除者含)者および2000年以後生涯学習基礎プログラム開始者

新プロ1999年(H11年)度以前修了(基礎プロ2000年度以前開始(新プロ特例措置者含む))	: 10単位以上
新プロ2000年(H12年)度修了(基礎プロ2001年(H13年)度開始)	: 8単位以上
新プロ2001年(H13年)度修了(基礎プロ2002年(H14年)度開始)	: 6単位以上
新プロ2002年(H14年)度修了(基礎プロ2003年(H15年)度開始)	: 4単位以上
新プロ2003年(H15年)度修了(基礎プロ2004年(H16年)度開始)	: 2単位以上

2005年度休会中会員の取り扱い

2005年度休会中会員については、2000年～2009年の20単位のうち、休会年×2単位を減じた単位数を2010年に報告する。

註：新プロ特例措置者とは、昭和60年度以前の協会入会者をさす

○新人教育プログラム対象者で、協会主催または後援等の冠がある学会・研修会・講習会に参加された方は、その学会等を新人教育プログラム対応研修会として読み替える事ができます。参加を証明する『受講証明書』あるいは『領収書』等を士会学会や研修会時に、生涯学習手帳と一緒に提出して下さい。単位認定を致します。但し、どの単位に対応するかは委員会の方で決めさせていただきます。

会員歴10年以上を有している方で、新人教育プログラム未了の方は、症例検討、とトピックス、を除き他の履修単位6単位(但し、生涯学習の単位必修)にて新人教育プログラム終了となります。対象の方は、生涯学習委員会までご連絡ください。

士会研修会の時には、必ず、生涯学習手帳を持参して下さい。

事務局インフォメーション

☆会員証の発行について☆

P T協会では会員数の増加に伴う事務処理の効率化や生涯学習における管理等の目的でクレジット機能付きの会員証を発行することを計画しております。詳細については協会からの情報待ちの段階ですが、クレジット付加の選択や賠償責任保険付加等の設定について検討され、今後会員に案内されます。

そういった情報に限らず、医療保険や介護保険の同行等も含めて協会ニュース、協会・士会のホームページ、士会ニュースを定期的にチェックし、情報のアンテナを張っておきましょう。



情報管理部の窓口から

情報管理部では、富山県士会員の方から、士会活動の案内等、理学療法に関係があると思われる様々な記事を募集し、士会ニュース伝言板に掲載していく予定です。掲載希望の方は、富山赤十字病院 林 朝美 まで連絡をお願いします。

【連絡先】

〒939-0859 富山市牛島本町2-1-58
富山赤十字病院 リハビリテーション科
林 朝美 まで
TEL (076) 4 3 3-2 2 2 2
FAX (076) 4 3 3-2 2 7 4

E-mail
rehabili@toyama-med.jrc.or.jp

職能局の相談窓口

職能に対して、職能局では電話による相談を受け付けています。お気軽に何でもお尋ねください。

電話番号(0765)24 3999 FAX(0765)24 3684

魚津市健康センター 森山まで

E-mail : akira-moriyama@city.uozu.toyama.jp

その他、理学療法に対しての疑問点は、事務局で相談を受け付けています。事務局までメール等をお願いします。

編集後記

この編集後記を執筆中、ヘルシンキ世界陸上が行われていました。そこから飛び込んできたニュースに大変うれしいものがありました。男子400m Hの為末大選手が銅メダルを獲得したというものです。2大会ぶり2個目の銅メダルですが、極度のスランプや父親の死、プロ転向などつらい4年間を乗り越えてのものだったようで、「つらい思い出が乗っかっている分、重い感じがする」と本人が語っていました。決勝レースの頭からゴールに飛び込む姿は、まさに死にもの狂いでした。メダルを獲得できたのは豪雨という悪条件を見方にできたからとのことですが、亡くなったお父さんが雨を降らせたのでしょうか。きっと天国で喜んでいることでしょう。

いやな事件、事故のニュースが多い中、大変明るいニュースのひとつでした。